

## 2018年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2018年2月13日

上場会社名 I N E S T株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3390 URL https://inest-inc.co.jp/  
 代表者 (役職名)代表取締役会長兼社長 (氏名)上村 陽介  
 問合せ先責任者 (役職名)管理本部長 (氏名)長谷川 裕 (TEL)03(6892)3864  
 四半期報告書提出予定日 2018年2月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2018年3月期第3四半期の連結業績(2017年4月1日~2017年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年3月期第3四半期	2,052	△5.2	△190	—	△206	—	△165	—
2017年3月期第3四半期	2,164	△12.2	148	—	146	—	204	—

(注) 包括利益 2018年3月期第3四半期 △171百万円(—%) 2017年3月期第3四半期 199百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2018年3月期第3四半期	△3.23	—
2017年3月期第3四半期	4.20	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2018年3月期第3四半期	1,822	903	49.4
2017年3月期	1,496	730	47.8

(参考) 自己資本 2018年3月期第3四半期 899百万円 2017年3月期 715百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2017年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2018年3月期	—	0.00	—	—	—
2018年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2018年3月期の配当につきましては、未定であります。配当については、決定次第速やかにお知らせいたします。

### 3. 2018年3月期の連結業績予想(2017年4月1日~2018年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,800	△2.9	△400	—	△405	—	△440	—	△9.06

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 除外1社 (社名)株式会社E P A R Kテイクアウト
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2018年3月期3Q	53,197,169株	2017年3月期	48,591,907株
② 期末自己株式数	2018年3月期3Q	66株	2017年3月期	66株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2018年3月期3Q	51,354,998株	2017年3月期3Q	48,591,841株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(追加情報)	9
(重要な後発事象)	10
3. その他	11
継続企業の前提に関する重要事象等	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2017年4月1日～2017年12月31日)における我が国経済は、政府の経済対策や日銀の金融政策を背景とし、企業収益、雇用の改善がみられました。一方、為替の変動や英国の欧州連合離脱、米国の政治政策の動向等、海外経済の不確実性の高まりなどから、先行きについては不透明な状況が続いております。消費の基盤となる個人所得の水準については、小幅な改善に留まっており、景況感は足踏み状態となっております。

このような経済動向のなか、当社グループは、将来に向けたさらなる収益力向上を目指し、システム事業基盤の構築や、サービスの拡充を行いながら、顧客ニーズにお応えする総合的なソリューション提案を行える体制を構築してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,052百万円(前年同期比5.2%減)となり、営業損失190百万円(前年同期は営業利益148百万円)、経常損失206百万円(前年同期は経常利益146百万円)となりました。また、受取損害賠償金106百万円を特別利益に、特別調査費用等49百万円を特別損失にそれぞれ計上したこと等により、親会社株主に帰属する四半期純損失は165百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益204百万円)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### ① システム事業

システム事業セグメントは、店舗運営を行う法人事業者を対象に、スマートフォン・タブレット端末を利用したPOSシステムの販売、予約サービスの展開など、店舗運営をサポートするソリューション提案を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、引き続きシステム事業基盤の構築や、サービスの拡充を行いながら、顧客満足度を向上させるべく、総合的なソリューション提案を行える体制を構築してまいりました。特に、予約システムなどのソリューションサービスの提供を行う体制を構築し、積極的に提案活動の展開を行い、収益力の向上を図ってまいりました。

また、前第1四半期連結累計期間において連結子会社であったアスカティースリー株式会社が連結の範囲から除外された影響もあり、当第3四半期連結累計期間の売上高は232百万円(前年同期比33.8%減)、セグメント損失は366百万円(前年同期はセグメント利益11百万円)となりました。

#### ② 直販事業

直販事業セグメントは、主にスマートフォンを中心とした携帯電話端末や周辺機器・モバイルデータ通信端末の販売を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、市場環境の変化により通信事業者からの販売手数料は引き続き減少傾向にあります。一方で、従来より取り組んできた、事業規模に見合った人員配置、従業員一人当たりの生産性の向上、諸経費の削減等が奏功し、業績が堅調に推移いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,820百万円(前年同期比0.2%減)、セグメント利益は247百万円(前年同期比20.3%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(単位：百万円)

	前連結会計年度末	当第3四半期連結会計期間末	増減
総資産	1,496	1,822	326
負債	766	919	153
純資産	730	903	173

総資産は、主に現金及び預金の増加により、前連結会計年度末に比べて326百万円増加し1,822百万円となりました。

負債は、主に前受金の増加により、前連結会計年度末に比べて153百万円増加し919百万円となりました。

純資産は、主に第三者割当による新株式の発行を行ったことにより、前連結会計年度末に比べて173百万円増加し903百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2018年度3月期の通期業績予想については、2017年5月18日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2017年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	889	1,209
売掛金	451	248
商品	5	2
その他	38	165
貸倒引当金	△1	△35
流動資産合計	1,383	1,589
固定資産		
有形固定資産	24	29
無形固定資産		
のれん	6	—
ソフトウェア	0	34
その他	1	1
無形固定資産合計	9	35
投資その他の資産		
投資有価証券	24	33
その他	63	145
貸倒引当金	△8	△11
投資その他の資産合計	79	167
固定資産合計	112	233
資産合計	1,496	1,822

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2017年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	223	122
未払金	306	357
未払法人税等	4	11
前受金	145	383
賞与引当金	62	19
役員賞与引当金	4	0
その他	18	23
流動負債合計	766	919
負債合計	766	919
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	274
資本剰余金	757	932
利益剰余金	△142	△308
自己株式	△0	△0
株主資本合計	715	899
非支配株主持分	14	3
純資産合計	730	903
負債純資産合計	1,496	1,822

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2016年4月1日 至2016年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年12月31日)
売上高	2,164	2,052
売上原価	1,293	1,311
売上総利益	870	740
販売費及び一般管理費	722	931
営業利益又は営業損失(△)	148	△190
営業外収益		
その他	1	0
営業外収益合計	1	0
営業外費用		
支払利息	1	—
持分法による投資損失	—	13
その他	0	2
営業外費用合計	2	15
経常利益又は経常損失(△)	146	△206
特別利益		
子会社株式売却益	62	21
受取損害賠償金	—	106
特別利益合計	62	127
特別損失		
特別調査費用等	—	49
特別損失合計	—	49
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	208	△128
法人税、住民税及び事業税	9	14
過年度法人税等	—	24
法人税等調整額	—	4
法人税等合計	9	42
四半期純利益又は四半期純損失(△)	199	△171
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△4	△5
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	204	△165

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	199	△171
四半期包括利益	199	△171
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	204	△165
非支配株主に係る四半期包括利益	△4	△5

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)

株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)

株主資本の著しい変動

当社は、2017年7月20日付で、株式会社アルネッツ及び株式会社光通信から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金が174百万円、資本準備金が174百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が274百万円、資本剰余金が932百万円となっております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	システム事業	直販事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	351	1,813	2,164	—	2,164
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	10	10	△10	—
計	351	1,823	2,174	△10	2,164
セグメント利益	11	206	217	△69	148

(注) 1 セグメント利益の調整額△69百万円は、各セグメントに配分していない全社費用△69百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第2四半期連結会計期間にアスカティースリー株式会社の株式の一部を譲渡したことにより同社が連結子会社でなくなったため、前連結会計年度の末日に比べ、当第3四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、システム事業において、320百万円減少しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	システム事業	直販事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	232	1,820	2,052	—	2,052
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	0	0	△0	—
計	232	1,820	2,052	△0	2,052
セグメント利益又は損失(△)	△366	247	△118	△72	△190

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△72百万円は、各セグメントに配分していない全社費用△72百万円であり  
ます。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(追加情報)

(当社元役員による不正な金銭の受領について)

2017年11月8日に公表しました「内部調査委員会の調査報告書受領等に関するお知らせ」のとおり、2012年5月より2017年9月にわたり当社子会社から複数の取引先に支払った金銭の一部について当社元役員が不正に受領していたことが判明しました。当該不正による当社子会社からの資金流出額160百万円のうち取引先から返金を受けた2百万円及び元役員から弁済された60百万円を控除した98百万円を元役員に対する求償債権として未収入金に計上するとともに、2017年9月に元役員から担保として差し入れられた有価証券63百万円を控除した残額34百万円について貸倒引当金を計上しております。これに伴い、受取損害賠償金106百万円を特別利益に計上するとともに、過年度法人税等24百万円を計上しております。なお、担保有価証券については2018年1月に売却を実施し、求償債権に充当しております。

(重要な後発事象)

(資本金の額の減少及び剰余金の処分)

当社は、2018年1月4日開催の取締役会において、2018年2月16日開催予定の臨時株主総会に、下記のとおり資本金の額の減少及び剰余金の処分について付議することを決議いたしました。

1. 資本金の額の減少及び剰余金の処分の目的

当社は、現在生じている繰越利益剰余金の欠損額を填補し、財務体質の健全化を図るとともに、今後の資本政策の柔軟性及び機動性を確保することを目的として、会社法第447条第1項の規定に基づく資本金の額の減少並びに会社法第452条の規定に基づく剰余金の処分を行うことといたしました。

2. 資本金の額の減少の内容

(1) 減少する資本金の額

資本金の額274,999,956円のうち174,999,956円を減少して、その他資本剰余金に振り替え、減少後の資本金の額を100,000,000円といたします。

(2) 資本金の額の減少の方法

払戻しを行わない無償減資とし、発行済株式総数の変更は行いません。

3. 剰余金の処分の内容

(1) 減少する剰余金の項目及び金額

その他資本剰余金 299,758,714円

(2) 増加する剰余金の項目及び金額

繰越利益剰余金 299,758,714円

(3) 剰余金処分の方法

会社法第452条の規定に基づき、上記2の資本金の額の減少の効力発生を条件として、その他資本剰余金299,758,714円を繰越利益剰余金に振り替えます。

4. 資本金の額の減少及び剰余金の処分の日程

取締役会決議日	2018年1月4日
株主総会決議日	2018年2月16日(予定)
債権者異議申述公告日	2018年2月19日(予定)
債権者異議申述最終期日	2018年3月19日(予定)
効力発生日	2018年3月21日(予定)

### 3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等  
該当事項はありません。